

裏路地探険

山陰表街道・裏街道分岐点の町／山東町

旧国道沿いの静かな町並み
 その昔、多くの旅人が行き交った道
 いくつもの時代が交錯する路地



矢名瀬町(山東町)

国道9号線と427号線に挟まれた一角にあり、その昔、但馬から遠阪峠を越えて京都・奈良へ続く山陰表街道と山東から亀岡へ続く山陰裏街道がはじめていた分岐点となる地域。旧国道9号線沿の梁瀬駅から続く町並みは、昔ながらの商店街、造り酒屋など、旧街道ならではの趣を残している。また、周辺には寺院が多く歴史的な物語もたくさん語り継がれている。



円照寺の境内縁側に腰かけて
 矢名瀬町の歴史を聞く

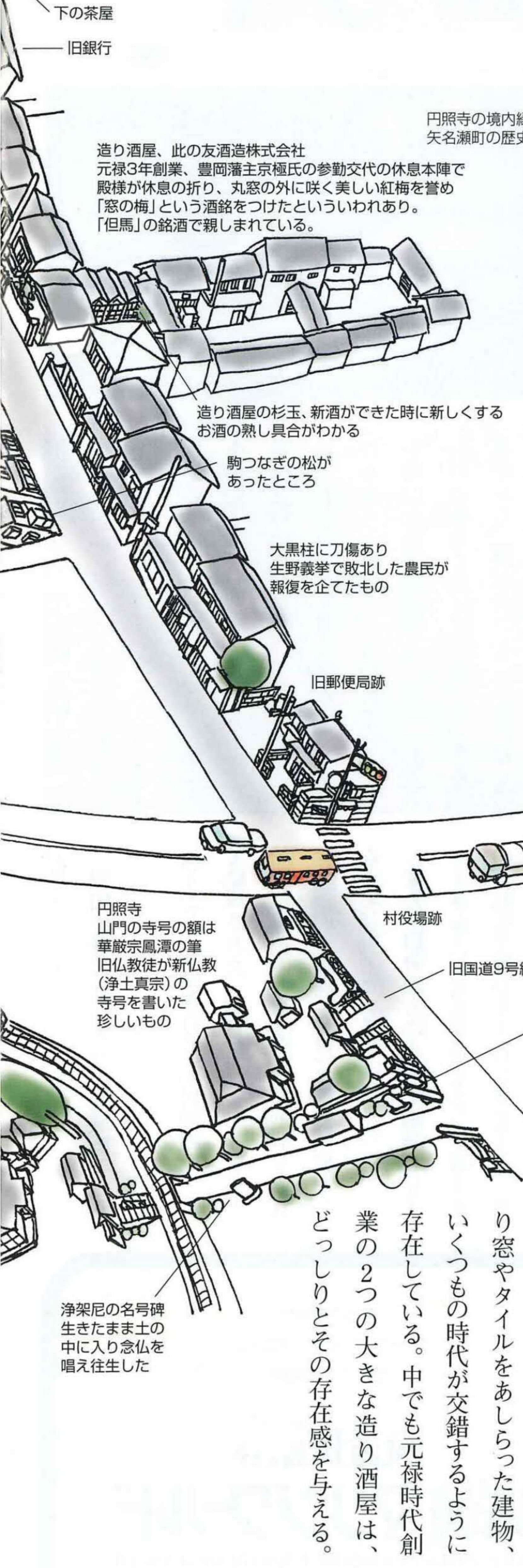
造り酒屋の杉玉



やなせ村道路元標



大黒柱の刀傷



絶え間なく行き交う車の流れ
 の向こうに静かに時を隔てた旧街
 道の町並みがひろがる。京都から
 山口県へと山陰を縦走する国道
 9号線と遠阪から神戸・大阪方面
 へ続く427号線が交差する一

角。昭和36年頃に、現在の位置へ
 国道9号線が改修されるまで、主
 要道路とされていた矢名瀬町の
 旧国道9号線沿いを歩く。
 かつては、村役場や郵便局、銀行
 があり、JR山陰本線梁瀬駅から
 うどん屋、自転車屋、運送屋、畳
 屋、飾り屋など多くの商店が軒を
 並べ、盆と正月にはやなせ市と呼

ばれる大きな市が立ち賑わってい
 た通りだ。
 さらに時代をさかのぼると、但馬
 から丹波、京都、奈良へ続く山陰表
 街道、矢名瀬町を起点に夜久野峠
 を越えて京都亀岡へ向かう山陰裏
 街道、西国巡礼者が姫路の書写山
 円教寺から天橋立成相寺をめざし
 て歩いたなりあい道としても知ら
 れる。江戸時代には参勤交代の大
 名行列が遠阪峠を越えて休息本
 陣を構えた但馬の玄関口とも言
 える交通の要所であった。

しかし、現在では、国道9号線
 の車が行き交う喧騒さとは対象
 的に、一步通りに入り込むと全く
 異なった静かな表情の町並みがひ
 るがる。土壁や白壁、格子、うだ
 つ、ハイカラと呼ばれた時代の飾
 り窓やタイルをあしらった建物、
 いくつもの時代が交錯するように
 存在している。中でも元禄時代創
 業の2つの大きな造り酒屋は、
 どっしりとその存在感を与える。



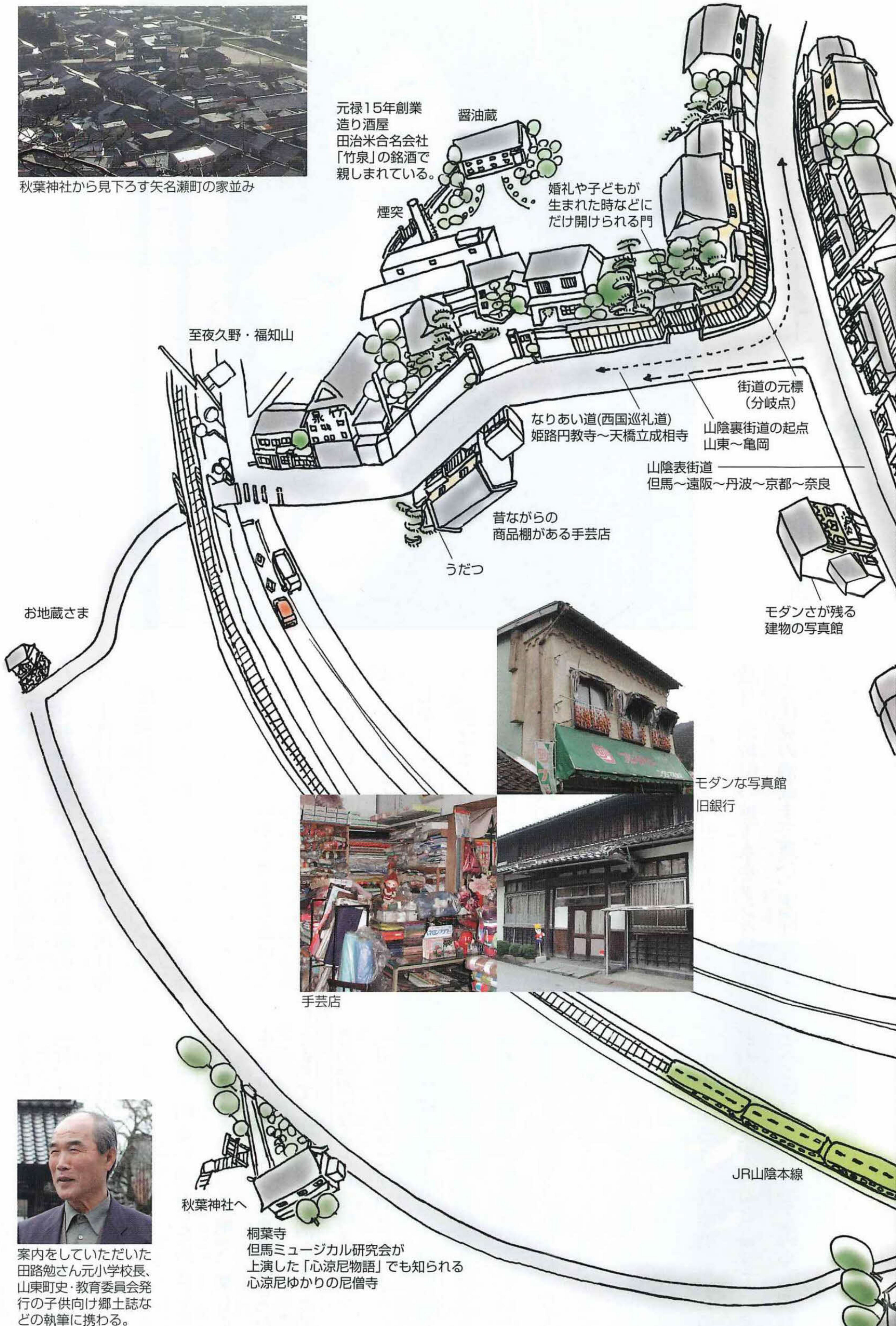
秋葉神社から見下ろす矢名瀬町の家並み

元禄15年創業
造り酒屋
田治米合名会社
「竹泉」の銘酒で
親しまれている。

醤油蔵

煙突

婚礼や子どもが
生まれた時などに
だけ開けられる門



街道の元標
(分岐点)

なりあい道(西国巡礼道)
姫路円教寺~天橋立成相寺

山陰裏街道の起点
山東~亀岡

山陰表街道
但馬~遠阪~丹波~京都~奈良

昔ながらの
商品棚がある手芸店

うだつ

モダンさが残る
建物の写真館

モダンな写真館
旧銀行

JR山陰本線

秋葉神社へ

桐葉寺
但馬ミュージカル研究会が
上演した「心涼尼物語」でも知られる
心涼尼ゆかりの尼僧寺



案内をしていただいた
田路勉さん元小学校長、
山東町史・教育委員会発行
の子供向け郷土誌など
の執筆に携わる。

長栄寺
大神楽の寺として知られる
伊勢の大神楽が興行中に誤
って刀が喉に刺さり命を失
ったことも(その後追善供
養の興行が行われていた)
また、浄架尼が仏師に彫ら
せた三十三体の観音像あり

の島へ流罪となった祖父を慕い、男
僧に扮して会いに行くために出発
した寺である。

長栄寺は生き仏となつて念仏を
唱え往生した浄架尼ゆかりの寺。
大衆娯楽、おやまの道中・皿まわ
し・刀芸など大神楽の興行が行わ
れたことでも知られている。

また、円照寺の山門にある寺号
の額は江戸中期の華嚴宗鳳潭の筆
によるもので、旧仏教徒が新仏教
である浄土真宗の寺号を書いたこ
とは大変珍しいとされている。

いずれも、今ではさほど広く感
じられない道幅に、幾多の時代に
多くの人々が行き交ってきた姿を
彷彿とさせる。表街道と裏街道の
分岐点となる二差路の隅に、時の
証人のように静かに道路元標が
佇んでいるのが印象的だ。

協力：山東町・矢名瀬町のみなさん

●裏路地探険隊員募集

4月21日(土) 関宮町探険
東鉢伏の自然豊かな山里、別宮を歩く

*実施日の10日前までに、22ページ掲載のT2編
集部へ住所・氏名・年齢・電話番号を記入の上、
ハガキでお申し込みください。

古いしきたりや技法、伝統を継承
し、今も人気の親しまれる地酒を
つくっている。生きた麴を育んで
来た歴代の蔵は、まさに神聖で、
幾年も守り継がれてきた神秘さ
を感じさせる。

商店を覗いてみると、長年大切
に使い込んだ商品棚に店番席が

あり、会話がはずむような店構え
がどこかなつかしい。外観からは
わかりにくいのが、間口は狭く奥行
きが長いのも特徴だ。

街道や歴史として語り継がれ
るエピソードも多い。豊岡藩主京
極氏が休息本陣として留まった
時、殿様の馬の駒つなぎに使って

いた立派な松の木があったとされ
るところ。下の茶屋の水はたいそ
うおいしいと評判でお茶を出して
もてなしたこと。ある民家には、

幕末1863年、生野義拳の折り
に敗北した農民たちが、戦を先導
したと報復に押し入り、大黒柱に
斬りつけた刀傷が今なお残され

さらに、国道9号線を隔てた秋
葉山の麓にも3つの寺があり、当
時の人々の暮らしや、生き方を知
ることが出来る。桐葉寺は、2年

前、但馬ミュージカル研究会が上演
した心涼尼物語のヒロイン心涼ゆか
りの寺で、農民一揆を起こし壱岐